

世界は友だち ガイドブックを作ろう



13時55分～14時55分 4階ホール

□6年 全校研究授業

題 材 私たちの暮らしと世界

テ ー マ 世界の人たちと仲よくするために

みんなに世界のことをもっと知ってもらおう！

ゴ ー ル 『世界は友だちガイドブック』を作ろう！



15時10分～16時30分 華陽公民館ホール

□全校研究会

講 師 鈴木敏恵先生

『意欲』『考える力』を高めるコーチング

＜ 未来教育プロジェクト学習&ポートフォリオ評価＞



平成15年10月21日

岐阜市立華陽小学校

プロジェクト学習指導案



13時55分～14時55分 4階ホール

□6年 全校研究授業

題 材 私たちの暮らしと世界

テ ー マ 世界の人たちと仲よくするために

みんなに世界のことをもっと知ってもらおう！

ゴ ー ル 『世界は友だちガイドブック』を作ろう！



15時10分～16時30分 華陽公民館ホール

□全校研究会

講 師 鈴木敏恵先生

『意欲』『考える力』を高めるコーチング

〈未来教育プロジェクト学習&ポートフォリオ評価〉

平成15年10月21日

岐阜市立華陽小学校

華陽小6年
わくわくタイム

題材

私たちのくらしと世界

ゴール

世界は友だち
ガイドブック

～世界の人たちと
仲よくするために～

テーマ

世界の人たちと
仲よくするために
みんなに世界のことを

もっと

知ってもらおう！

1. 単元名 「私たちのくらしと世界」

2. 指導の立場

①単元の「ねらい」と「育てたい力」の明確化

子どもたちは、これまでに地域の河川を中心とした環境や、高齢者福祉に関心をもって取り組んできた。地域を学びの場として、「ひと」や「もの」と関わることから、自分自身も地域を構成している一人であり、自分自身の問題として積極的に関わるができることに気づいた。

6年生になって、学びの場を「地域」から、「世界」に広げることができると考えた。

インターネットなどの情報機器を活用する能力も高まり、世界への関心も高まりつつある。また、歴史では世界とのつながりを通して、くにづくりを進めた先人の姿に驚きをもって学ぶ姿が見られたことがその理由である。

自分のくらしが世界とどのようにつながっているのかを見つめさせ、世界には多様な価値観があることに気づいた子どもたちが、再び身のまわりにも多様な価値観があることに気づくことをねらっている。「地域」から「世界」へ目を向けた子どもたちが、再び「地域」へ目を向けるのである。そして、身近な人たちの物の見方考え方の違いも受け入れられることをねらって「私たちのくらしと世界」という題材を設定した。

「私たちのくらしと世界」のねらいは、

- 様々な価値観や生活習慣をもつ世界の人々が共存する世界を願い、身近な人に対しても物の見方や考え方の違いを尊重することができる。
- 題材に進んで関わっていくことで、自ら課題を見つけ、追究していくことができる。

また、この単元を通して「育てたい力」を

- 課題を見つける力：世界の様々な価値観や生活習慣に興味をもち、課題をもつことができる
- 課題を追究する力：課題解決に向かって見通しをもち、ねばり強く取り組むことができる
- 学 び 合 う 力：外国の人や外国に住んでいた日本人から学んだり、仲間の学び方から学んだりすることができる
- 伝 え る 力：世界とのつながりや異文化に関する自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えることができる
- 生き方を考える力：国際人として、様々なものの見方や考え方の違いを尊重できる

とした。

②教師の持つ「テーマやゴールのイメージ」

テーマ

子どもたちや世界で活動する人に伝えよう！

もっと 世界の人たちと なかよくするために 大切なこと

(願い)「世界の人たちと共に 仲よく くらせる未来にしたい」

「文化の違い」を列挙することを目的としていない。文化の異なる人たちとよいつながりを持ち続けるために、どんな違いに気をつけ、どのように行動するとよいのかを考え、国際社会で生きる未来の大人を相手にして学習を進めることをイメージした。

多様な価値観を「あたり前(=文化)の違い」と表現して、子どもたちの心情に働きかけることにした。

- 違いを学ぶことが、おたがいの文化を大切にすることになる。
(あたり前の違いを知ることはおもしろいなあ。)
(あたり前にしていることが違い、違うのがあたり前なんだ。)
- 違いを学ぶことが、世界に出て働くときに役に立つことになる。
- 違いを学ぶことが、世界の人々と関わる人を育てることになる。
(みんなが知るといいのになあ。)
(外国の人と関わりをもとうとする人は知らないと困るだろうな。)
(おたがいのあたり前を大切にしたいな。)

違いが見つければ見つかるほど、「こんなに違うのに、なかよくすることはできるのだろうか。」
「こうした違いをもつ人たちとなかよくしていくためには、どんなことを大切にしたらよいのだろう。」
という思いを強くすると予想した。「なかよくする」という姿とは、「相手を尊重すること」や「相手を受け入れること」ができる姿と考えた。

ゴール 「世界の人たちと なかよくするためのガイドブック」

<教師の願い>あたり前としていることに込められた知恵に気づき、
(すごいなあ!)と尊敬の念をもてることにこだわって指導したい!

「旅行者のためのガイドブックはあっても、『仲よくするためのガイドブック』は見ることがない！」
を励ましの言葉にしようと思った。

どんな文化をもった人たちと仲よくしたいのかを考えて、国別のチーム分けをイメージすると、

- 「韓国の人となかよくするためのガイドブック」
- 「バキスタンの人となかよくするためのガイドブック」
- 「ブラジルの人と なかよくするためのガイドブック」
- 「〇〇国の人と なかよくするためのガイドブック」

のようになった。

また、国別ではなく、あいさつや食事の仕方、服装、トイレの使い方等に込められた知恵を紹介することで相手の文化の理解を深めることをイメージすると、

- 「世界の人たちと なかよくするあいさつ紹介ビデオ」
- 「世界の人たちと なかよくトイレブック」「世界の人たちの服装・知恵発見ブック」
- 「世界の人たちの食事の仕方ガイドブック」

のようになった。

1チーム4～6名、10～12チーム程度を目安にすることや、プレゼンテーションの後、再構築のフェーズで作成した成果物を各種図書館や公民館に展示したり、他校の児童生徒にも読んでもらうこと、ホームページでその作品を海外の日本人学校の児童生徒にも見てもらうことなども想定した。

③フェーズの展開

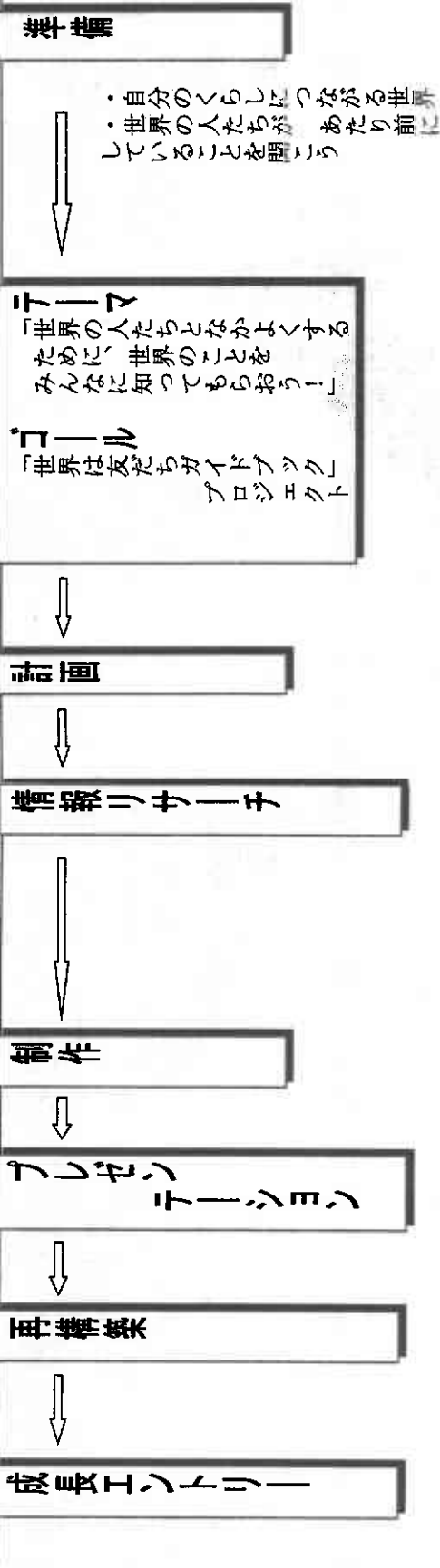
テーマ・ゴールを考えてから、夏休みが入ることは学習意欲を持続させる上で難しいと考えた。

1学期に「準備」、9月運動会が終わってから、「計画」→「情報リサーチ」と集中して取り組めるように時間配分を見直した。「プレゼンテーション」を11月5日。一人一人がガイドブック作りに取り組む「再構築」を11月中と見通し、次のようなフェーズ展開図を作成し、子どもたちと共有した。

この他、チームの構成は、2クラス合同にすること、できる限り、2クラス一緒の時間をもつこと、学級担任2名による T.T.を基本にすること、プロジェクト学習解説書の言葉を頼りにしながら進めることを確認した。

フェーズの展開 (全70時間) プロジェクト学習6年 世界のひとたちと仲よくするために、世界のことをみんなに知ってもらおう!

「世界は友だちガイドブック」を作ろう!



「身につく力」

- 課題発見力
- 自己決定力
- 時代の事象を見る力
- 社会への参画力

- 戦略力
- 計画力
- 遂行力
- 発想力

- 対応力
- 情報スキル
- 情報機器活用力
- 情報を見極める力

- 思考スキル
- 情報の取捨選択力
- 提案力
- 共有する力

- プレゼンテーション力
- 状況判断力
- 表現力
- 他者から学ぶ力

- 論理的に考える力
- デザイン力
- 推しこみ力

- 自己評価力
- 相互評価力
- 自己成長力
- 自己肯定力

12月3日 11月10日 11月5日 10月17日 10月8日 10月2日 9月24日

第6学年 総合的な学習の時間「わくわくタイム」年間指導計画

岐阜市立華陽小学校

題材	テーマ	ゴール
私たちの暮らしと世界	世界で活動しようとする人たちに伝えよう！もっと世界の人たちと仲よくするために大切なこと	世界の人たちと仲よくするためのガイドブックを作り、ホームページでも紹介する

フェーズ展開	活動のイメージ	開始日(予定時間)
<p>準備</p> <p>シート⑤⑥⑦⑧</p>	<input type="checkbox"/> 「暮らしと世界とのつながり」について調べる。 <input type="checkbox"/> 外国の人や、外国に住んでいた人から、日本と外国の文化の違いについて話を聞く。 ・私たちのあたり前と ○○○国のあたり前の違い ・パキスタン、フィリピン、韓国、ブラジル、ロシア 日本	5月12日 (22時間)
<p>テーマ・ゴール</p> <p>シート⑨⑩⑪⑫</p>	<input type="checkbox"/> テーマとゴールを決める。シート⑤⑥ テーマ：世界で活動しようとする人たちに伝えよう！ もっと世界の人たちと仲よくするために大切なこと ゴール：あいさつ紹介・食べ物や食べ方パッチリ ・好きな遊びはこれ！・宗教ガイドブックなど <input type="checkbox"/> チームを作る シート⑦⑧	9月24日 (6時間)
<p>計画</p> <p>シート⑬⑭</p>	<input type="checkbox"/> チームの提案について考える。シート⑨ <input type="checkbox"/> チームで企画書を作製する。シート⑩ <input type="checkbox"/> サーチの問題点と解決策について考える。シート⑪ <input type="checkbox"/> 工程表を作製する。シート⑫ 行くこと(すること)・分担・準備する物	10月2日 (4時間)
<p>情報リサーチ</p> <p>シート⑮</p>	<input type="checkbox"/> 図書館の本をスタートにして、インターネットや在外日本人学校、Eメール、在日大使館、各種パンフレットを活用して調べる。シート⑬⑭リサーチシート	10月6日 (13時間)
<p>制作</p> <p>シート⑯⑰</p>	<input type="checkbox"/> 模造紙2枚で調べたことをまとめる。シート⑮ プレゼン・持ち時間は？ 1チーム10分 ・誰に？ 6年生+教員+保護者+国際交流員 ・聞いてくれる人数は？ 約80名 ・場所は？ 4階ホール特設会場	10月17日 (6時間)
<p>プレゼンテーション</p> <p>シート⑱⑲</p>	<input type="checkbox"/> プレゼンテーションの準備をする。シート⑯ <input type="checkbox"/> プレゼンテーションを行う。仲間の発表を聞く。 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションのまとめをする。シート⑰ ※プレゼン 11月5日	10月28日 (7時間)
<p>再構築</p> <p>シート⑳</p>	<input type="checkbox"/> 再構築する方法を学ぶ。シート⑱ <input type="checkbox"/> プレゼンテーションや、これまでのポートフォリオをもとにして、ガイドブックをまとめる。 <input type="checkbox"/> 手順に沿って再構築の下書きをする。シート⑲ <input type="checkbox"/> 再構築を行う。	11月13日 (10時間)
<p>成長エントリー</p>	<input type="checkbox"/> ポートフォリオを活用してプロジェクト学習を通して得たことを振り返り、自分の成長したことを確かめる。シート㉑ <input type="checkbox"/> 友だちの成長を伝える。シート㉑	12月3日 (4時間)

(岡和教育の観点から)

第6学年 総合的な学習の時間「わくわくタイム」評価規準

＜目指す子どもたちの姿＞ 様々な価値観や生活習慣をもつ世界の人々が共存する世界を願い、ものの見方や考え方の違いを尊重する子を育てることができる。

＜身につけたい5つの力＞

	課題を見つける力	課題を追究する力	学び合う力	伝える力	生き方を考える力
全体	世界の様々な価値観や生活習慣に興味をもち、課題をもつことができる	課題解決に向かって見通しをもち、ねばり強く取り組むことができる	外国の人や外国に住んでいた日本人から学んだり、仲間の学び方から学ぶことができる	世界とのつながりや異文化に関する自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝える	国際人として、様々なものの見方や考え方の違いを尊重できる
各フェーズにおける評価規準	身近にある外国とのつながりに興味関心をもてる	教室の中や家の中、身近なお店などで、世界とのつながりを調べるができる 異文化の話を聞く際に観点をもちて聞くことができる	聞いたことを仲間と共有することができる 話をする人に質問することができる	心に残ったことを仲間に話すことができる	世界や日本における異文化の存在に気づき、大切にしようと思えることができる
	取り組みたいテーマをもち、ゴールを見通すことができる	自分の知っていることを整理することができる 仲間の考えを受け止め、確かな根拠をもつて整理することができる	自分の願いと仲間の願いから、チームのテーマを明らかにすることができる 世界の人たちと仲良くなろうという願いをもち	自分の願いを仲間に伝えることができる 自分の願いを根拠を明らかにして伝えることができる	社会に対する願いを考え、テーマとしてもつことができる
	すべき仕事、時間のこと、方法、必要なものなどを模造紙に書き出すことができる	課題解決の見通しをもち、工程表を作ることができる 世界の人たちと仲良くなるための方法を考え、解決の見通しをもてる	チームの仲間と力を合わせて解決の方法や手順を相談することができる		
		困ったことやうまくいかないことなどへの対応策、解決策をイメージできる 様々な情報の中から確かな情報を見極め、それをもとにして自分の考えをもてる	調べたことをチームの仲間と共有することができる	調べる内容や意図を相手に伝え、調べるができる	
		プレゼンテーションの「制作物」を作るための手順を知ることができる	話し合いを通して、伝えたいことをはっきりさせることができる	伝えたいことをはっきりさせて、模造紙2枚に伝えたい内容を工夫してまとめることができる 一人一人がもっている情報を適切に生かして、根拠ある情報をもとに制作できる	
			自分や仲間のプレゼンのよさや改善点を伝え合い、受け入れることができる 自分たちや他のチームのよさや改善点を話し合い、共に高まろうとすることができる	伝えたいことを短い言葉で表現することができる 伝えたいことを図や写真を使って効果的に表現することができる	
		ポートフォリオをもとにして、取り組んできたことを組み立てることができる			考えたことを根拠ある情報をもとにして書き表すことができる 考えたことを根拠ある情報をもとにして書き表すことができる
	活動や成果を振り返り、よいところや課題を見つけることができる	ポートフォリオに自分の成長を見つけて付箋をつけることができる	お互いのよさや伸びたところを見出し、紙に書いて伝えることができる		自分のよさを認め、自信をもち、自分を大切にすることができる 自分のよさを認め、自信をもち自分を大切にすることができる

本時までの 指導の実際

- 準備
- テーマ・ゴール
- 計画
- 情報リサーチ

3. 指導の実際

準備

①子どもたちが、自分のくらしと世界とのつながりに目を向けることからスタート!



子どもたちは世界とのつながりという、松井、イチロー、中田などスポーツ選手によるつながりがイメージの大部分で、身近なくらしの中につながりを実感していなかった。自分の身のまわりに外国製品が溢れていることに気づかせることから、世界とのつながりに目を向けるように試みた。

身の回りにある様々な物が外国製品であることに気づいた子どもたちは次のような感想をもった。

「びっくりしたな。予想以上にたくさんの国とつながりがある。地球の反対側からも！」
「中国製品がとても多いな。ヨーロッパの国々や南アメリカの国々ともつながっている。」
「もし、これらの国々につながっていなかったら、私たちのくらしはどうなっていたのだろう。」
「世界の人たちに私たちのくらしが支えられていたことに初めて気づいたよ！」
「でも、私たちは世界の国々のことを知らないなあ。名前すら知らなかった国もあるよ。」
「知らないと困ることや失礼なこともあるかもしれないな。もっと知る必要がある。」
「もっと世界の国々のことを知りたいな。知りたくなってきた。」

世界の国の話を聞く動機付けをすることができた。

②「世界と日本のあたり前(=文化)の違い」に こだわりながら。

「世界の国の話を聞きたい。」子どもたちの願いに応えるため、岐阜県国際交流センターを訪れた。

ここで韓国、ブラジル、ロシアの交流員に話をしてもらうことになった。また、EFとしてお世話になっているクリス先生(フィリピン)と3年間パキスタンで生活した学級担任の話を加えた。

5月22日 パキスタン 29日 フィリピン

6月13日 韓国 18日 ブラジル 26日 ロシア

パキスタンの話を聞いた子どもたちは、右手を使って、カレーを食べることや、45度を超える夏にも関わらず、長袖長ズボンの服装をしていること、辛いカレーには秘密があること、1日5回のお祈りを大切にしていることなどにたいへん驚き、興味をもった。

そして、それが「自分たちのあたり前にしていること」と異なるために驚いたことに気づいた。

さらに大人の拳骨2つ分もあるパキスタンの大きな松ぼっくりを見て、「うわあ、大きい。」と叫ぶ子どもたちに日本の松ぼっくりを見せた。そして、「パキスタンの人がこれを見たら、どう思うだろう。」と尋ねた。

私たちがとは反対に『なんて小さいのだろう』と、びっくりするだろう。『変なの。こんな小さい松ぼっくりはおかしいよ。』と言いたくなるかもしれないな。」

それぞれに自分が正しいと信じている「あたり前」があることに気づくことができた。「世界と日本あたり前の違い」が世界の国の話を聞くポイントになった。子どもたちに身近である「あたり前」という言葉を使うようにして、学習の最後には、「文化」という言葉に置き換えていくことを考えている。



③日本のことも知らない自分に気づいて。

6月の研究授業における鈴木敏恵先生のアドバイスを受けて、日本人のお話を聞く機会をもった。

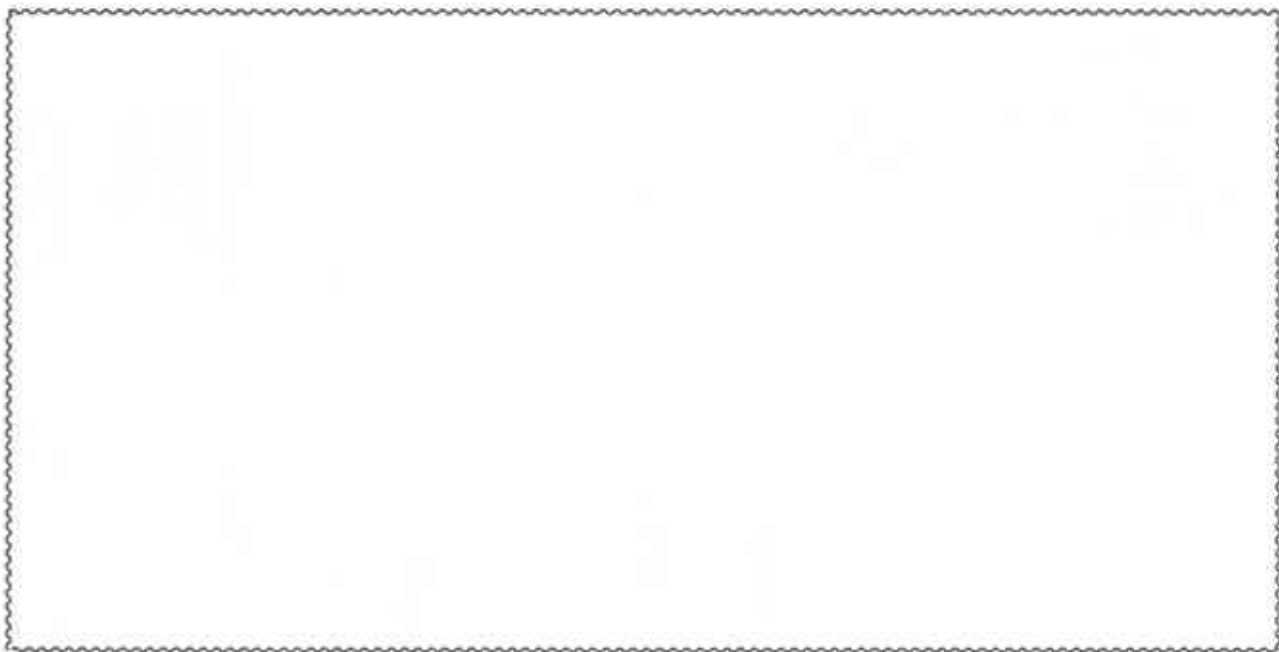
浴衣を着た教頭先生による「梅干しの効能」「打ち水の効果」「浴衣の着方」「安心して飲める水」などのお話から、日本のことなのに知らなかったことや、日本の文化やそのよさにも目を向ける大切さに気づくことができた。

華陽小6年★わくわくタイム



パキスタンの 人たちの暮らし

平成15年5月22日(木)

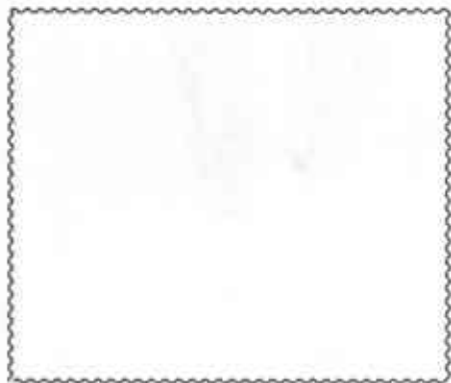


華陽小6年★わくわくタイム



フィリピンの 人たちの暮らし

平成15年5月29日(木)



華陽小6年★わくわくタイム



韓国の 人たちの暮らし

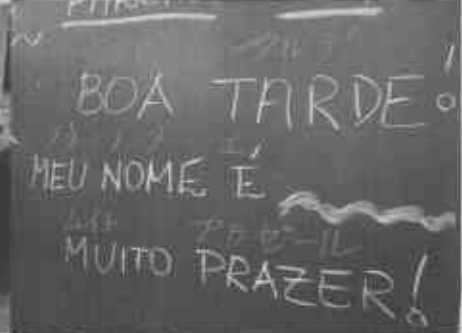
平成15年6月13日（金）





ブラジルの 人たちの暮らし

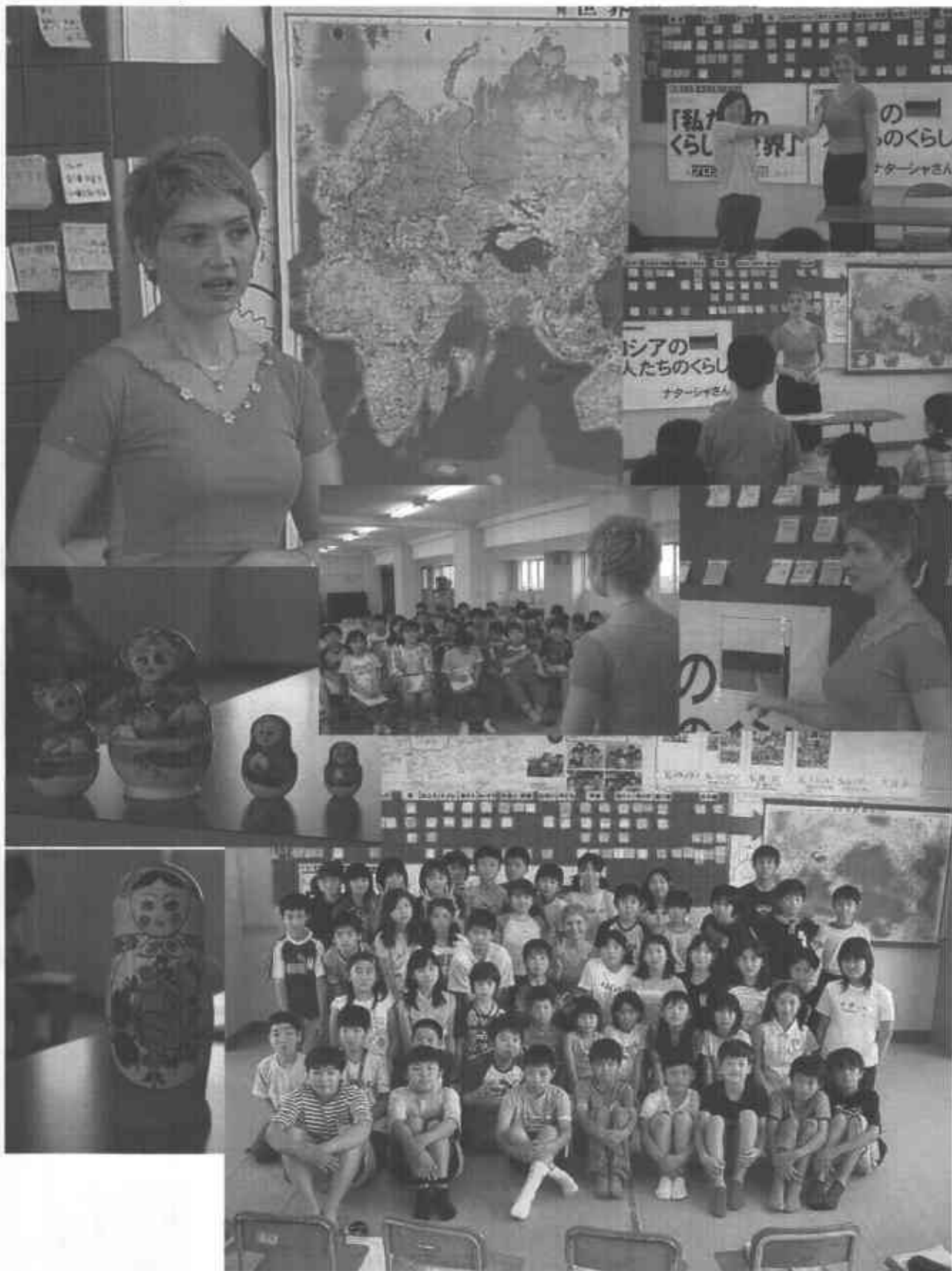
平成15年6月18日(水)



華陽小6年★わくわくタイム

ロシアの 人たちの暮らし

平成15年6月26日(木)



▼子どもたちが気づいた あたり前の違い

パキスタン	フィリピン	韓 国	ブラジル	ロシア
				
右手を使って、カレーを食べる	手を使う 音を立ててはいけない	鉄のはしを使う お皿は置いて食べる	音を立ててはいけない	
1日3食カレーを食べる		ごはんを食べる 犬を食べる	へびや、うさぎを食べることがある	名物はボルシチとピロシキ
子どもたちは、大切な働き手になっている	子どもたちも仕事をしている	子どもたちは学校へ通っている		
イスラム教を信じて1日5回お祈りする	キリスト教を信じて1日3回お祈りする	4割 キリスト教 3割 仏教 信じている		80%はキリスト教
あいさつは握手 アッサラームアレイクム	あいさつは握手 目上の人には握った手を額にあてる		あいさつはキス	握手が基本 おじぎは自信がない証拠
服装は、長袖長ズボン シャルワルカミーズ	服装は、半袖半ズボン			
トイレでは水を使う 紙を使わない	トイレでは水を使う 紙を使わない	トイレでは紙を使う でも流さず、ゴミ箱へ	使用済みトイレットペーパーはゴミ箱に捨てる	
水が貴重なもの	水が貴重なもの	ふだんはシャワー 日曜朝は銭湯であかすり		
家が、石やレンガでできている	家が、木や石でできている	床下のパイプにお湯を流す ＝オンドル	瓦が赤い	窓ガラスが二重になっている 壁の中を湯が流れている
甘い紅茶(チャイ)が大好きな飲み物	やしの実のジュースが大好きな飲み物	キムチは必ず食べる 給食にも出る		
豚肉はさわってもいけない(イスラム教)	豚肉はおめでたい日の一番のプレゼント クリスマスには豚の顔にリンゴを入れて飾る	おめでたい日は、ワカメスープを飲む 試験の日は飲まない		
学校に行きたくても行けない子がいる 青空教室 黒板ノート	学校は、午前と午後	学校は日本と似ている 春休みはない ゴールデンウィークない		

④100人アンケートを通して。

2学期に入り、1学期に学んだ内容について、身のまわりの人たちがどのくらい知っているのかをアンケート調査した。10の設問を作り、知っているかどうかを尋ねた。一人あたり2～3名尋ねた結果、153名の回答が寄せられた。その結果から、自分たちも知らないでいた世界の「あたり前」を半数以上の身のまわりの人たちも知らないでいる事実がわかった。

華陽小6年★わくわくタイム



日本の 人たちのくらし

平成15年9月17日(水)



教頭先生のお話を聞いて

日本を見直しました！

- ・日本は幸せだと思ふ。水も飲めるし梅干しもある。
- ・日本の水は美味しいと初めて知った。
- ・日本の食生活が体にとてもよいことを知らなかった。
アメリカやヨーロッパの人たちがヘルシーで素晴らしいと考えていることを知らなかった。
- ・水をうって涼しくする工夫を素晴らしいと思った。
- ・着物が日本の文化と知らなかった。
- ・教頭先生は浴衣を5分で着るなんてすごい！！
- ・日本でふつうに思っていたことにもすごいことがあると気づいた。

日本のことを知らないなと実感！

- ・日本に住んでいるのに日本のことで知らないことが多かったのでびっくりした。話を聞いてよかった。
- ・自分の住んでいる国だから全部知っていると思っていたけれども、梅干のことなど知らないことがまだまだあったので日本のことを知らないなと思った。
- ・日本には私たちの知らないことがまだいっぱいあると思った。

もっと日本のよいところを言えるようにしたい！

- ・教頭先生に日本のいいところを言えるかな？と聞かれて、ビクツとした。もっと日本のよいところを言えるようにしたい。
- ・ぼくは日本のいいところを言って！と言われても、すぐに言えない。
日本のいいところを言えるようにしたい。
- ・はしをちゃんと持ちたい。
- ・梅干しのこと、着物のことなど日本人なのに日本について知らないことがたくさんあったので、もっと知ろうと思った。
- ・昔の日本人は、いろいろな知恵をしぼって生きていたことが分かった。先祖の知恵があったから、今の私たちの生活があるように思えてきた。とても幸せだと思った。

教頭先生ありがとうございました